

本光寺 飛龍 仏教壮年会報

2008(平成 20)年

9 月発行 No.52

● この夏は雨の降り方が本当にスコールのようでしたね。暑い日ばかりでなく、急に寒くなったり、また暑くなったり、でも次第に秋の気配がしてきました。暑いといっても、真夏のような35度といった温度ではありませんし、朝晩はけっこう涼しくなってきました。これからは寝冷えに注意ですか。

● 例年の仏壮総会を別欄の通りおこないます。準備のための役員会も別欄のとおりにおこないますので、予定を空けておいてください。報恩講の準備なども話し合いたいと思います。

**仏壮役員会
のお知らせ**
9 月 18 日(木)
午後 2 時より
会場:本光寺
出欠の連絡は会長まで
会長 国分正剛 27-8066

● 見頃西光寺の螢の会に合わせておこなった 6 月 28 日の仏壮・仏婦研修旅行は、天候に恵まれ、慧日寺・達沢・裏磐梯・会津大仏・見頃西光寺とバスでゆっくり回ることが出来ました。総勢 13 名、仏壮よりの参加は国分さんと佐藤信仁さんでした。慧日寺では資料館で勉強して、金堂を見学改めて会津の歴史に感動しました。達沢で昼食、不動滝で涼んで、裏磐梯のホテルで休憩しました。上三宮の願成寺に日暮れ近くに到着、会津大仏を拝観します。大きなお寺にまた会津

**仏壮総会
のお知らせ**
9 月 27 日(土)
午後 6 時半より
会場:本光寺
年会費:3000 円
会 費:2000 円
出欠の連絡は同封のはがきで
お願いします



の歴史を感じました。見頃西光寺では、仏壮の方々が蕎麦うちの準備をして、日がとっぷり暮れたころ、螢を見に出かけます。目が慣れてくるとあちこちに螢が舞っているのがみえました。その後蕎麦が茹で上がり美味しい蕎麦をたっぷりいただきました。次は大晦日の除夜の鐘を打ちながら蕎麦を食べるのだそうです。

● 会員を募集しています。どなたでも入れます。お申し込みはいつでも、本光寺まで連絡をください。

「ののさまケーキ」誕生秘話

義本弘導（大阪府浄行寺住職）

十二月二十四、二十五日になりますと、にわかクリスチャンとなってクリスマスケーキを食べる人が多く見受けられます。ところが、ケーキを食べ終わりますと、自分がクリスチャンでなかったことに気がつき、罪滅ぼしにとばかりに、年末にお寺で除夜の鐘をゴーンとつきます。さらにその足で、新年を迎え、一年の無事を願って、ガラガラ、パンパン。これって、どうでしょう。一カ月どころか、わずか一週間ほどの間に三回改宗していることになります。年中行事とはいえ、できれば仏教で統一したいものです。

クリスマスにケーキを食べるのでしたら、十二月には仏教にも大事な行事があります。それは十二月八日です。この日はお釈迦さまがおさとりをひらかれた日で、成道会と言います。せっかくでしたら、その時にケーキを食べてお祝いしましょう。

以前私は、ケーキ屋さんをお願いして「成道会、おめでとう」と書いてもらいましょう、と本願寺で開かれたある研修会で提案をしました。その研修会に、北海道で菓子店を営む門徒さんが参加されていて、

「私の店で作ってみます」

ということになりました。それが、今月の「読者のひろば」に掲載されている写真のケーキです。二年がかりで考えられ、お念珠をかたどった中に、イチゴで蓮の花を表したかわいらしいものになりました。しかも「成道会ケーキ」と限定せず、「ののさまケーキ」と名づけられました。

そして、このデザインを独占するのではなく、いろいろなところで作って食べてもらいたいということです。どうぞ、皆さま、さまざまな仏教行事の時に、このケーキを作って楽しんでください。よろしくお願いします。

さて、この話にはまだ続きがあります。そこに参加されていた広島女性が、

「私、家族でしています」

と発表されました。すでに毎年、「成道会ケーキ」を作ってお祝いされているのです。私が最初と思っていたら、すでになさっていて感心してしまいました。

ほかの行事は、どうされているのだろうか、ちょっと興味があって、後で話を聞かせていただきました。一番気になったのはバレンタインデーでした。

ちょうど、娘さんが高校の時の出来事だそうです。バレンタインデーが近づいてきたら、娘さんが沈み込んでいるのです。尋ねたら、

「学校で友だちがチョコを配る相談をされていて、自分も配りたいけど、お母さんに言ったらきっと反対されるとあって……」

ということだったのです。そこでお母さんは、

「それじゃ、一日待ちなさい」

と答えたそうです。バレンタインデーは、二月十四日です。一日待つということは十五日。この日はお釈迦さまが入滅された日で、涅槃会と言います。お母さんは、

「涅槃会にチョコレート配りなさい」

と十五日の朝に用意をされたそうです。それも、包みには「涅槃会チョコ」と書いたそうです。それを見た娘さんは、なお落ち込んで、ブスツとして学校に行ったそうです。

ところが、帰ってきたら上機嫌で、

「お母さん、私、有名人になったよ」

とルンルンです。よく聞いてみると、一日遅れで配ったものですから、それだけでも目立ったのですが、「涅槃会チョコ」と書いてあったものですから、なんだなんだと話題になって一躍有名人になってうれしかったそうです。

お母さんと一緒になって喜んでいる横で、今度は小学生の弟さんがしょんぼりしていたそうです。なぜかと尋ねてみると、学校でバレンタインチョコをもらっていて、ホワイトデーのお返しをしなければと思ったのですが、二人の喜びようを見ていたら言い出せなかったそうです。

お母さんは、今度は弟さんに、

「それじゃ、一週間待ちなさい」

と言われたそうです。ホワイトデーは、三月十四日です。その日から一週間後ということは二十一日で、お彼岸です。それでお母さんは「彼岸会クッキー」を作られたそうです。

私たちは、ともすると、皆がしているから同じようにしないと仲間はすれになるということで、世間の習慣に流されてしまうことがあります。しかし、この広島女性は、自分の依りどころをはっきりとして、一本筋を適していく、ぶれない人生を送っていく姿を示してくださいました。

ちょっとこじつけた感じもありますが、すべてを仏教に結びつけて受け止めていこうとされるこの女性から、大切なことを学ばせていただきました。

（大乘 2008 年 9 月号より）

